

私の学習方法

角田敏雄

1. 国語

「朝日新聞」の1面にある「天声人語」をハサミで切り抜き、ノートに貼る。
「知らない言葉」「読めない漢字」の横に鉛筆で線を引く。
「天声人語」の内容は100～200文字で要約してノートに書く。
「知らない言葉」「読めない漢字」は、家族に訊くか、辞書で調べてノートに書く。
……これを毎朝、登校する前に仕上げしてから家を出ました。
ばくの場合、夕方や夜よりも「朝活」の方が、効率はいいのかもしれませんが。

2. 数学

本屋で問題集を買ってきて、ひたすら解きました。
「わからない」「解けない」問題は、近所に住んでいた理科大生のおにいさんに訊いて教えてもらいました。
「証明問題」は大好きで、よくチャレンジしていました。
推理小説を読むのが大好きな少年でしたから、「証明する」という行為そのものが好きだったのかもしれませんが。

3. 英語

教科書を「丸暗記」して、中間試験や期末試験に臨んでいました。
英語は苦手でしたから、定期テストで点数をかせぐためにはこれしかないと思っていました。
試験範囲の英文は全て暗記。それなりに、点数はとれました。
ただし、「実力テスト」では、まったくとっていいほど点数がとれません。

4. 社会

NHKの大河ドラマ「黄金の日々」にはまって、戦国時代に生きた武将や商人を演じる役者のセリフや動きを真似して、友だちと遊んでいました。
根津甚八が演じる「石川五右衛門」が「豊臣秀吉」を暗殺するために城に忍び込むシーンは、学期末のお楽しみ会で演じるほどはまっていました。血糊の代わりに「トマトジュース」を使用して、担任の先生に叱られました。
そこから大河ドラマの登場人物に興味を持ち、島田陽子が演じる「細川ガラシャ」の美しさに魅了されると、彼女や彼の父親である「明智光秀」の伝記を読むようになっていたりして、「歴史」に関して言えば、ドラマがきっかけでどんどん自分で調べて知識を増やすようになりました。
そもそも「エピソード」が好きな少年だったと思います。

5. 理科

すみません。家で学習した記憶がありません。

